

令和4年度 学力向上プラン（10月修正版）

学校名 中央区立日本橋中 学校

学校の教育目標

- | | |
|-------------|------------------|
| ○考える人になろう | ○心ゆたかな人になろう |
| ○たくましい人になろう | ○みんなのためにつくす人になろう |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- | |
|---|
| 1 学習で習得した知識及び技能を活用し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。特に表現力の育成を目指した協働的な言語活動を全教育活動で展開することで、主体的な課題解決能力を育成する。 |
| 2 授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進め、基礎基本の確実な定着を図る。 |
| 3 校内研究、授業観察、個々の教員の教材研究で、毎時間の授業の質を向上させる。 |
| 4 各種検定の取組やサブリノートの活用を通し、自学自習の意識を向上させ、学習習慣の確立を図る。 |

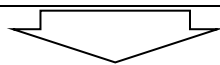
令和4年度「学習力サポートテスト」「全国学力・学習状況調査」の結果や、令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価、児童・生徒の日頃の学習状況等を踏まえ、10月までの授業改善の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	- 話し合いの内容を聞き取る問題では、内容を整理しながら聞き取ることができない生徒が一定数おり、1年生は「令和4年度学習力サポートテスト」において「意図に応じて話の内容を捉え、適切な質問をしている」項目で目標値を14.8ポイント下回っている。 - 漢字の書き取り読み取りや文法事項が定着せず、向上しない。「令和4年度学習力サポートテスト」において3年生は「小学校で学習した漢字を正しく書いている」項目で9.4ポイント目標を下回り、1、3年生とも文法の問題で目標値を20.5、17.4ポイント下回っている。	- 聞くことに特化した学習の機会が少なかった。 - 漢字について練習的な活動が十分ではなかった。 - 話し合い活動の際の視点や、課題が不明瞭だった。 - 漢字の書き取り、読み取り等について個別の課題設定ができていなかった。
数 学	「令和4年度学習力サポートテスト」の数学全体の正答率が、2、3年生は10ポイント以上上回っているが、1年生は全国平均に対して4.3ポイント上回るに留まった。 - 方程式の領域に関して若干苦手とする傾向がある。 「令和4年度学習力サポートテスト」において、3年生は「与えられた文章題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。」問題で10.7ポイント目標を下回っている。また、2年生は「2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いる理由を理解している」問題で6.7ポイント目標を下回っている。 - 相対度数への理解が浅い。	- 関数を活用した演習不足。 - 分布の傾向を考えるグループ活動や少人数指導で発表する場面が少なかった。
社 会	- 地理的分野・歴史的分野のどちらも、具体的な事象の知識の定着が不十分である。1年生は「大和朝廷について理解する」項目で24.3ポイント、2年生は「古代文明」の項目で15.6ポイント、3年生は「日本の地形」の項目で28.2ポイント、「南蛮貿易」の項目で27.3ポイント目標値を下回っている。 - 地理的分野で資料の活用に課題がある。2年生は、「アジア州の農業生産について資料をもとに考察する」項目で8.9ポイント、「雨温図をもとに考察する」項目で5.2ポイント目標値を下回っている。	- 具体的な既習事項について反復練習する機会が少なかった。 - 授業内で資料を活用する場面が少なかった。 - 資料を読み取る際に、分析はできるが、文章にまとめたり、ポイントを絞ったりする場面が少なかった。
理 科	「令和4年度学習力サポートテスト」における記述の解答形式において、目標値を1年生で2.0ポイント、2年生で6.7ポイント、3年生で5.4ポイント下回っている。 「令和4年度学習力サポートテスト」における、「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、目標値を2年生で1.4ポイント、3年生で12.9ポイント下回っている。	- 既習内容を基に自然現象を自分の言葉で説明する機会が少なかった。 - 学習内容が難しくなるにつれて、学習に対し、受け身の姿勢になってしまう。

英 語	・文法や語句に関して定着が不十分な生徒が一部いる。 ・習得した文、語句を用いて、まとまりのある文章を書くこと、即興で話すことに課題がある。 ・初見の文章を理解することに課題がある。 ・文章の理解に対して、繰り返しの学習を要する。 ・習得した知識を活用して会話をしたり、発表したりすることに課題がある。 ・区サポートテストの結果では、「場面に応じた英作文」の正答率が2年と3年で50ポイントを下回っているものがあり他項目に比べ低めの傾向である。さらに、2年生では「必要な情報を読み取る」項目で目標値より6ポイント下回っている。	・知識の定着のための反復練習を行う機会が少なかった。 ・習得した事項を用いて表現に繋げる活動が不足していた。 ・多岐にわたる内容を扱った英文を読む機会が不足していた。 ・反復練習を重視し、初見の文章を読解する機会が少なかった。 ・習得した知識を表現する活動が不足していた。 ・表現活動が苦手な生徒が多い。
体育・保健体育	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等の調査結果 1年 全国平均より低い、東京都平均より高い 課題：20m シャトルラン、上体起し 2年 全国平均よりは低い、東京都平均より高い 課題：握力、上体起し、20m シャトルラン 3年 全国平均より低い、東京都平均とほぼ同じ 課題：握力、上体起し、反復横跳び	・昨年度、コロナ禍における運動機会の減少、部活動の活動自粛により、運動する時間が減少した。 ・校舎の修繕により、運動をする場が制限され、少ない状況にある。 ・上記の理由から、体を長く動かし続ける能力(全身持久力、筋持久力)に課題がある。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	・発表などの活動の際には、漫然と聞くのではなくポイントを絞ったり評価しながら聞いたりすることで聞く力を養う。 ・漢字テストや定期考査の漢字の書き取り読み取りに目標をもって取り組むようにする。現状では各学年とも小テストでは8割程度正解しているので、8割5分の正答率を目標とする。
	数学	・1年生も2、3年生と同様に、全国平均よりも10ポイント以上上回ることを目標とする。 ・3年生の様々な単元の問題を解くときに、2年生の復習も含め、3年生の連立方程式のポイントが目標値よりも下回らないようにする。 ・2年生の統計の単元で振り返りを行い、2年生の相対度数のポイントが目標値よりも下回らないようにする。
	社会	・具体的な既習事項を活用する機会を増やす。 ・授業内に資料を活用する場面を増やす。 ・長期休業中のドリルパークの取り組みにおいて、7割以上の正答率を目標とする。
	理科	・知識が定着するように、ドリルパークなどを用いて、反復練習を行う機会を増やす。 ・感染症対策をとりつつ、実験を行う機会を増やし、実験器具の使用法まで理解できるようにする。 ・「令和4年度学習力サポートテスト」における記述の解答形式において、目標値を上回る。 ・「令和4年度学習力サポートテスト」における主体的に学習に取り組む態度の観点において、目標値を上回る。
	英語	・授業で初見の文章を読解する機会を増やす。 ・会話や発表を増やし、アウトプットする機会を増やす。 ・主体的に英文を考え、書く時間が増やす。 ・定期考査などにおいての「場面に応じた英作文」で、6割以上の正答率を目標とする。

	体育・保健体育	令和5年度の東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等の調査において、生徒の7割が都の平均値を超える。また都の平均値を下回って項目については生徒の7割が都の平均値を超える。
②授業改善		目標「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進める。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を超える。生徒学校評価アンケートで肯定的評価が90%以上となる。」 令和3年度保護者学校評価アンケート ・「授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進めているか。」 よくあてはまる26.6% あてはまる57.7% 計84.3% 前年度を上回るようにする。(目標85%) ・「学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 よくあてはまる29.4% あてはまる55.5% 計84.9% 前年度を上回るようにする。(目標85%) 令和3年度生徒学校評価アンケート ・「授業規律を守り、落ち着いて授業を受けることができますか。」 よくできた74.5% まあまあできた23.5% 計98.0% 90%以上を継続する。
③家庭との連携		目標「自学・自習の学習習慣が身に付くように指導する。」 指標「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を超える。」 令和3年度保護者学校評価アンケート ・「サブリノートや各種検定の取組で、自学・自習の学習習慣が身に付く指導をしているか。」 よくあてはまる23.2% あてはまる49.1% 計72.3% 前年度を上回るようにする。(目標80%) ・「生活と学習のサブリノート」を活用し、学校と家庭の双方向の情報交換を通して、学習・生活状況の把握を行い、指導に生かしているか。」 よくあてはまる25.9% あてはまる52.6% 計78.5% 前年度を上回るようにする。(目標80%) 令和3年度生徒学校評価アンケート ・「サブリノートを活用し、毎日の復習など家庭学習の習慣を身に付けることができますか。」 しっかり身に付いている31.6% 身に付いている40.8% 計72.4% 前年度を上回るようにする。(目標80%)
④体力向上		目標「運動意欲を高め、生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できる資質・能力を身につけられる指導をする。」 指標①「年度末に実施する保護者学校評価アンケートおよび生徒学校評価アンケートで肯定的評価が前年度を超える。」 令和3年度保護者学校評価アンケート ・「学校は生徒の健康・体力の増進に努めている。」 十分に達している33.7% 達成している52.4% 計86.1% 前年度を上回るようにする。(目標90%以上)

	指標②「次年度の体力・運動能力テストで東京都の平均値を超える項目を増やす。」 ・「シャトルラン」「上体起こし」について、東京都の平均値とほぼ等しくなるようにする。 ・「反復横跳」「握力」について、東京都の平均値を超える。
--	--



【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	・発表等では聞く観点や評価項目を明示する。慣れたら自分でそれらを考えられるようにする。 ・漢字の小テスト等を定期的の実施する。各学年の実態に応じて、毎日の授業あるいは月に一度、5問から50問の漢字のテストを実施する。
数学	・1年生では中学数学における一般化や具体化を各単元で行う。 ・3年生の様々な単元の問題を解くときに、3年生の連立方程式の復習をする。 ・2年生の統計の単元で、1年生の振り返りを行う。
社会	・単元のまとめで、具体的な既習事項を活用した活動を行う。 ・長期休業中にドリルパークを活用させ、復習のきっかけとさせる。 ・地理的分野では地球儀とG S Iの活用機会を増やす。
理科	・既習内容を基に自然現象を自分の言葉で説明する機会を増やすため、授業、実験での振り返りを書かせ、詳しく具体的な内容になるように指導する。 ・学習内容が難しくなっても、学習に対し意欲的に取り組めるようにするため、日常生活の現象と結び付けた指導を行い、普段から科学に関心を持たせられるように指導する。
英語	・ワークシートやワークブックなど活用しで初見の英文に触れる機会を増やす。 ・ALTの授業など活用し、スピーキングやプレゼンテーションの時間を増やし対話に抵抗をなくす。 ・ワークシートを工夫し、単元に合った英文を書く時間を増やす。
体育・保健体育	・様々な単元(種目)に取り組み、バランスよく体力の向上を図るように年間指導計画を計画する。 ・授業の導入時におけるコーディネーショントレーニングの種目数を増やすとともに、トレーニングの原則や種目における目的を説明する。また体づくり運動の単元を通して、自らの運動計画を立案する。 ・運動、スポーツを“する”だけでなく、“見る、支える、知る”など、多様な関わり方を通して、運動やスポーツを身近なものにする。
②授業改善	
取組Ⅰ	①交流が活発に行われる授業 ②「できた」「分かった」を実感させる授業 ③社会や生活に広がる授業を目指す。 今年度の研究の柱である「話し合い活動」を教科横断的に実施する。「振り返りシート」を活用し、役割や身に付けたい力を明確にすることで、交流も活発に行われると考える。また、発問を工夫し、ゴールを明確にすることで達成感を得ることができると考える。(規則性・最適解・自己の考えを深める)

取組Ⅱ	・授業や単元のまとめを確実にし、基礎知識として定着させる。 ・テスト2週間前の朝読書の時間を、朝学習に切り替えテストへの意識を高める。この時間にドリルパークに取り組み、基礎知識の定着を図る。
-----	--

③家庭との連携	
取組Ⅰ	「生活と学習のサブノート」を活用し、各生徒の家庭学習の状況を把握するとともに、保護者と連携を図り、家庭学習の習慣化を目指させ、自学・自習の能力を育成する。毎日の記入と提出を生徒に促し、三者面談でサブノートの記録などをもとに家庭学習について話をし、定着を促す。ドリルパークを各家庭でも取り組めるよう、Crassroom や通信等で周知する。
取組Ⅱ	携帯電話、スマートフォン、タブレット等の使用について家庭でルールを決め、食事や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立させる。

④体力向上	
取組Ⅰ	生徒が自ら体を動かしたくなるような企画や授業を行い、楽しみながら継続して体を動かせるようにする。 ①体育館の開放(バランスディスク、握力計、柔軟計測) ②ICTの活用(自分の動きの確認、映像をもとに教え合うなど)
取組Ⅱ	毎時間の授業でコーディネーショントレーニングを取り入れる。体力テストを実施し、生徒一人一人が自身の健康や体力を把握するとともに、健康の保持増進するための運動を自ら実施できるようにする。